

JPA 会員は、自然体験を通じて、協働する仲間と知り合い、その活動の中でそれぞれの自己実現を求めます。一方、JPA は、その同志に活動の場を提供し、会員共同の自主意思により運営されます。会員は、NPO である JPA が、その社会的責務を果たすことを通じ、そこへの参画で共通した満足感と喜びを覚えます。

ところが、いかに素晴らしい活動成果をあげようとも、野外中心の活動である以上予期せぬ事故は起こり得ます。これに対しては、安全はすべてに優先する前提課題であることを各人が厳しく認識し直し、徹底した安全管理と対策を再構築しなければなりません。

しかしそれだけでは問題は解決されないことを、我々は今回の議論の結論として皆様に訴えます。活動の成果は個々人の働きよりも、仲間との協調と役割分担により一層高められます。従って安全問題も、個々の対策以上に、チーム仲間の日頃のコミュニケーションと協力一致の信頼感が、その根底になれば砂上の楼閣になりかねません。

自身はもちろん、チーム仲間の安全確保を前提に、一般参加者の絶対安全を保障することが JPA の究極の社会責務です。自然の素晴らしさを互いに共有するために、今一度、この共通認識をどうすれば持ちうるか、下記項目などを班内で語り合うことを提案します。

## 提案

### 「安全は互いのコミュニケーションと意識徹底から生み出される」

- 1、 押しつけ指示より、話し合い、自主協調による**役割分担意識**の徹底
- 2、 互いの遠慮を排し、もっと班内と**縦横のコミュニケーション**を図る
- 3、 班ごとに**早期に全員がリーダー**（サブ）や安全担当を体験しあう
- 4、 活動時のパワー不足時には、他班との間で**人材相互交流**を呼びかける
- 5、 下見時に不安全要素と対策案を**現場でより徹底議論**し企画書に記入
- 6、 実施報告書に「ヒヤリハット」と\*「**発見と感動**」を全員発言で記入  
\*（発見した自然界の面白さ、 自然・参加者・仲間から得た感動）
- 7、 参加者にも「**自己責任による注意事項**」を事前に配布徹底し共有する
- 8、 **必修研修**（安全管理や救急法）の受講漏れ対策の徹底
- 9、 協会運営規定、チェックシート、班毎の企画・報告書など諸文書は公開して管理し、PDCA のつど確認する。 以上